

Asia Indicators

発表日: 2024年8月16日(金)

インド、インフレ大幅鈍化もコアインフレは加速 (Asia Weekly(8/12~8/16))

~オーストラリアの雇用環境に底堅さも、地域ごとの跛行色はこれまで以上に鮮明さを増している~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (Tel: 050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/12(月)	(インド)7月消費者物価(前年比)	+3.54%	+3.65%	+5.08%
	6月鉱工業生産(前年比)	+4.2%	+5.5%	+6.2%
8/14(水)	(韓国)7月失業率(季調済)	2.5%	--	2.8%
	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	5.25%	5.50%	5.50%
	(インド)7月輸出(前年比)	▲1.5%	--	+2.6%
	7月輸入(前年比)	+7.5%	--	+5.0%
8/15(木)	(オーストラリア)7月失業率(季調済)	4.2%	4.1%	4.1%
	(中国)7月鉱工業生産(前年比)	+5.1%	+5.2%	+5.3%
	7月小売売上高(前年比)	+2.7%	+2.6%	+2.0%
	7月固定資産投資(年初来前年比)	+3.6%	+3.9%	+3.9%
	(インドネシア)7月輸出(前年比)	+6.46%	+3.85%	+1.19%
	7月輸入(前年比)	+11.07%	+0.04%	+7.58%
	(フィリピン)金融政策委員会(翌日物借入金利)	6.25%	6.50%	6.50%
8/16(金)	(シンガポール)7月非石油輸出(前年比)	+15.7%	+1.2%	▲8.8%
	(マレーシア)4-6月実質GDP(前年比・改定値)	+5.9%	+5.8%	+5.8%※

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。※は速報値

【インド】~食料品で物価上昇もインフレは鈍化、全般的なインフレ圧力の高まりを反映してコアインフレは加速~

12日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+3.54%となり、前月(同+5.08%)から鈍化して約5年ぶりに中銀(インド準備銀行)が定めるインフレ目標の中央値(4%)を下回る伸びとなっている。ただし、前月比は+1.42%と前月(同+1.33%)から上昇ペースが加速しており、このところの国際原油価格の頭打ちの動きを反映してエネルギー価格の上昇の動きに一服感が出ているものの、穀物や生鮮食料品をはじめとする食料品価格で大幅な上昇が続くなど食料インフレ圧力がくすぶる状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.35%と前月(同+3.14%)から伸びが加速するなど2ヶ月連続で底入れしているものの、中銀目標の中央値を下回る推移が続いている。そして、前月比は+0.60%と前月(同+0.11%)から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇一服も輸送コストに押し上げ圧力がくすぶるほか、国際金融市場における通貨ルピー安による輸入インフレも重なり幅広く財価格が押し上げられるとともに、家計消費の旺盛さや雇用回復の動きなど

を反映してサービス物価も上昇基調を強めており、インフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

同日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+4.2%となり、前月（同+6.2%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きに一服感が出ている。エネルギー需要の高さを反映して石炭をはじめとする鉱業部門の生産は引き続き堅調な動きをみせているものの、製造業の生産において底入れの動きに一服感が出ているほか、経済活動に連動する傾向がある発電量も3ヶ月ぶりの減少に転じており、景気全体の動きにも一服感が出ている様子がうかがえる。製造業のなかでは耐久消費財、非耐久消費財問わず消費財全般で生産が下振れしているほか、こうした動きが影響する形で中間財関連や資本財関連など幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かるなど、全般的に生産活動が鈍化している。

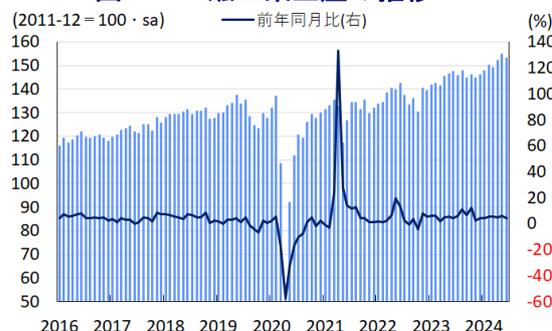
14日に発表された7月の輸出額は前年同月比▲1.5%となり、前月（同+2.6%）から4ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、機械製品関連の輸出に下押し圧力が掛かるのみならず、国際原油価格の調整の動きを反映して石油製品関連の輸出額も下振れしているほか、鉱物資源関連や宝石など幅広い分野で輸出に下押し圧力が掛かっている。一方の輸出額は前年同月比+7.5%となり、前月（同+5.0%）から伸びが加速している。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移しており、頭打ちの動きを強める輸出と対照的な動きをみせている。財別では、原油の輸入額に下押し圧力が掛かる一方、機械製品関連の輸入は堅調な推移をみせているほか、金の輸入も底堅い動きをみせている。結果、貿易収支は▲235.00億ドルと前月（▲209.80億ドル）から赤字幅が拡大している。

図1 IN インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 IN 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成, 季調値は当社試算

図3 IN 貿易動向の推移

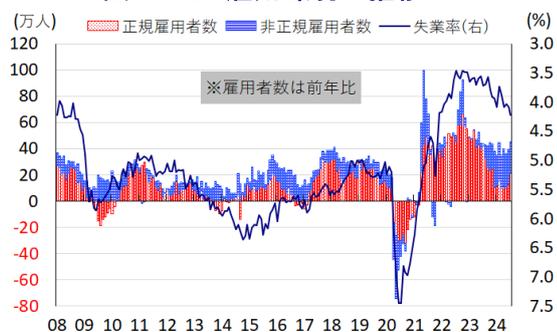


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[オーストラリア]～失業率はわずかに悪化も雇用に底堅さ、地域ごとの跛行色が一段と鮮明になる動きも～

15日に発表された7月の失業率(季調済)は4.2%となり、前月(4.1%)から0.1pt悪化している。失業者数は前月比+2.4万人と前月(同+1.1万人)から2ヶ月連続で拡大しており、雇用形態別でも正規雇用に対する求職者数(同+2.3万人)のみならず、非正規雇用に対する求職者数(同+0.1万人)もともに拡大するなど、全般的に拡大している様子がうかがえる。一方の雇用者数は前月比+5.8万人と前月(同+5.2万人)から4ヶ月連続で拡大しており、雇用形態別でも非正規雇用者数(同▲0.2万人)は調整の動きをみせる一方で正規雇用者数(同+6.1万人)の拡大の動きが雇用者数全体を押し上げている。地域別では、最大都市のシドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州において雇用が大きく底入れする動きが確認されるほか、産業に占める鉱物資源関連の比率が相対的に高い西オーストラリア州でも底打ちの動きが確認される一方、ヴィクトリア州やクィーンズランド州では調整の動きがみられるなど、地域ごとの跛行色がこれまで以上に鮮明になっている様子がうかがえる。

図4 AU 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インドネシア]～輸出入ともに底入れの動きが確認されるも、輸入の勢いが増して貿易黒字は大幅に縮小～

15日に発表された7月の輸出額は前年同月比+6.46%となり、前月(同+1.19%)から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。国際原油価格の頭打ちにも拘らず、原油や石油製品、天然ガス関連の輸出が底入れの動きを強める動きをみせているほか、鉱物資源関連や製造業関連、農産品関連など幅広い分野で輸出額が拡大するなど堅調に推移している様子がうかがえる。一方の輸入額は前年同月比+11.07%となり、前月(同+7.58%)から伸び

が加速している。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調は拡大傾向を強めるなど底入れの動きが進んでいる。財別でも、原油や石油製品関連の輸入が堅調な推移をみせているほか、機械製品関連などの輸入も幅広く拡大している。結果、貿易収支は+4.72億ドルと前月（+23.95億ドル）から黒字幅が縮小している。

図5 ID 貿易動向の推移

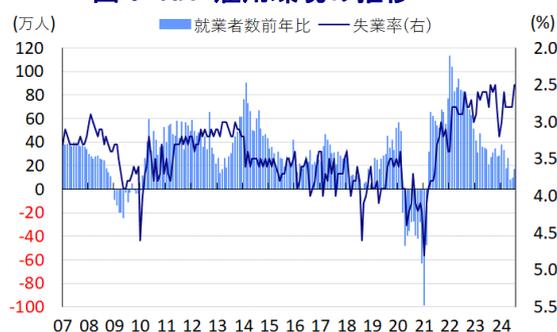


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[韓国]～失業率は低下するも、雇用環境の厳しさを受けて労働市場からの退出の動きが加速している模様～

14日に発表された7月の失業率（季調済）は2.5%となり、前月（2.8%）から0.3pt改善している。失業者数は前月比▲8.4万人と前月（同▲2.1万人）から2ヶ月連続で減少しており、年代別ではすべての年代で減少が確認されるとともに、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。一方の雇用者数は前月比+1.9万人と前月（同+0.2万人）から2ヶ月連続で拡大しており、頭打ちの動きを強めてきた流れに底打ち感が出ているものの、年代別では10代や20代といった若年層で減少している一方、高齢層を中心に拡大の動きが確認されるなど跛行色が鮮明になっている。雇用形態別では、正規雇用で調整の動きがみられる一方、非正規雇用で底打ちの動きがうかがえるなど評価が難しい状況にある。事実、労働力人口は前月比▲0.6万人と前月（同▲0.2万人）から3ヶ月連続で減少しており、年代別では若年層や働き盛り世代を中心に減少する動きが確認されるなど、労働市場からの退出の動きが加速している様子がうかがえる。こうした動きを反映して労働参加率は64.2%と前月（64.4%）から0.2pt低下しており、労働市場を取り巻く環境が厳しさを増している様子がうかがえる。

図6 KR 雇用環境の推移



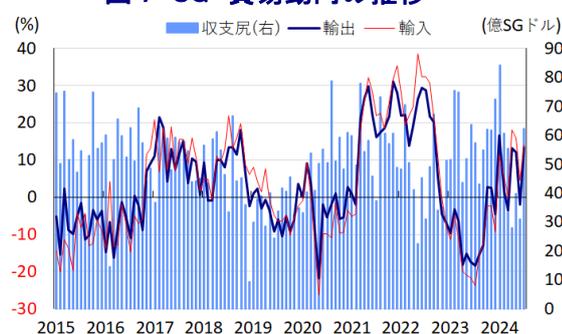
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～頭打ちが続いた輸出に一転底打ちの動きも、輸入は頭打ちの動きが続く展開が変わらず～

16日に発表された7月の非石油輸出額は前年同月比+15.7%となり、前月（同▲8.8%）から6ヶ月

ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+12.19%と前月（同▲0.45%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。財別でも、主力の輸出財である電気バルブや通信機器、半導体などの電子部品をはじめとする機械製品関連の輸出が堅調な推移をみせているほか、化学製品関連の輸出が大きく上振れして輸出額を押し上げていることも影響している。原油関連を併せた総輸出額も前年同月比+13.4%と前月（同▲2.0%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じているほか、前月比も+6.3%と前月（同▲5.2%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じている。一方の輸入額は前年同月比+14.0%となり、前月（同+4.7%）から伸びが加速している。ただし、前月比は▲0.2万人と前月（同▲3.2万人）から3ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。原油など鉱物資源関連の輸入は比較的堅調な動きをみせているものの、機械製品関連や化学製品関連など素材、部材関連の輸入に下押し圧力が掛かる動きがみられる。結果、貿易収支は+62.30億ドルと前月（+31.04億ドル）から黒字幅が縮小している。

図7 SG 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。